



香取で暮らす、香取を楽しむ情報紙

広報

かとり

Kat^{ori}

平成28年(2016)

1月15日号

No.236

イチゴのチカラで
地域に元気を!

カトリノ郷物語

まだ見ぬ美味しさを語り明かす

vol. 9

15日号は農政課で募集した「香取の逸品」にスポットをあてます



さわら
リバー・ファーム

石川浩史さんの呼びかけで、道の駅水の郷さわらに出荷する有志を中心に設立。1月7日、イチゴ摘み取り農園としてオープン。

写真は左から並木和也さん、小山田正和さん、春日敦子さん、諏訪直人さん、代表の石川浩史さん

道の駅水の郷さわら前、道路を挟み反対側に立派なハウスが並ぶ。「さわらリバー・ファーム」と名付けられたこの施設は、今月オープンしたばかりのイチゴ摘み取り農園だ。その代表であり、自身は観光事業を振興する会社の役員である石川さんを訪ねた。

「ここでは今、^{あまひめ}章姫、^{べに}紅ほっぺ」という二種類のイチゴを栽培しています。どちらも水の郷さわらでは取り扱っていなかった品種なので、道の駅で買いたい物をする人にも、少し足を延ばして立ち寄ってもらえると嬉しいですね」

道の駅の出荷者と品種を変え、競合を避けた形になる。またイチゴという商品に着目したのも、石川さんが水の郷さわらの経営に携わり、道の駅と農園、相互の発展を視野に入れていたからこそ。

「水の郷に関わってきた中で、冬場の集客が落ち込み気味なのが以前から課題でした。そこで、一つの目玉として老若男女好き嫌いが少なく、食べやすい、イチゴを提供することにしました。来てくれたお客さんには、農園のイチゴはもちろん、市内を巡っておいしいものを食べて帰ってもらえたらいいな、と」

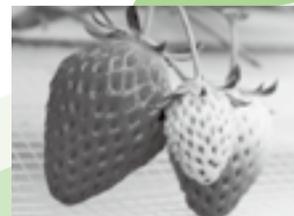
イチゴを呼び水に地域の活性化を図る、その構想はいつから？

「やはり震災の後ですね。観光事業もダメージを受け、まちも元気を無くしていましたから。そんな雰囲気を変えたくて、イチゴ農園の設立に必要なことを勉強し、一昨年の春ころから具体的に計画が動き出したんです。地主さんに協力いただき、圃場を借り、道の駅の出荷者の中で賛同してくれる人たちを募り、一緒になって取り組みました。そうしてオープンにこぎ着けた農園。ハウス内は明るく清潔で高設栽培（地面より高い場所に棚を組み栽培する様式で、車いすや小さな子どもも摘み取りやすい）の設備が広がり、二種類の瑞々しいイチゴが鈴なりだ。

「どちらも人気のイチゴです。^{あまひめ}章姫は、甘くやわらかで酸味が少ないジューシーな味わい。それから^{べに}紅ほっぺは、甘味と酸味の調和が絶妙で歯応えがあり、特に女性に好まれます。このハウスでは初の栽培でしたが、おいしく食べていただける出来だと思えます」

静かに自信をのぞかせる石川さん。それもそのはず。イチゴ栽培の分野で蓄積された技術・知識から得た情報を基に生育に必要な水、湿度、温度などを最適な状態で管理する設備を整え、常に状況を把握。さらに専業のイチゴ農家から指導を受け研究に余念がない。

「皆さんの協力あつての農園です。それだけに自分たちだけでなく、関わってくださった方々にとって今後のプラスになるよう、体験型施設ならではの集客もてなしで、地域に貢献していきたいですね」志高く始動した農園では加工品製造も想定していると話す。実現すれば、六次産業化による雇用創出などの役割を担っていくだろう。



「章姫、紅ほっぺ。」

1月のオープンから5月上旬まで摘み取り可能。定休日や営業時間など詳細はホームページをご覧ください。農業生産法人 彩都デザイン株式会社 さわらリバー・ファーム

☎ 0478(52)1515

🌐 <http://www.r-farm.biz/>

02 介護予防・日常生活支援
総合事業が始まります

02 パブリックコメント 意見募集

03 個人住民税における公的年金からの
特別徴収制度の見直し



祝・香取市
合併10周年



香取の逸品
KATORI